灰色文献救済作戦

飄々

広報委員

吉川　功一

広報委員のdutyである「飄々」の原稿を書き始めて何回目になるでしょうか？いつもネタに困って、私にとって一番簡単でさっと書けてしまう趣味のビートルズの事ばかり書いてきましたが、おかげで県内でいろんな先生方からビートルズの話題で話しかけていただいたりする事も増えてきました。先日はコアなビートルズファンの先生からご丁寧なお手紙までいただき感激しましたし、この飄々を目にした県下のテレビ局から、番組用に資料提供依頼なんかも来たりして驚きました。

ビートルズに限らずコレクターという人種には２種類のスタイルがあるようです。ひとつはこっそり貴重な品を隠し持って「世界広しといえどもこれを持っているのは自分だけ、誰にもみせたくない」と、ひとり夜な夜な眺めてはほくそ笑むタイプ、もう一つは頼まれもしないのにコレクションを見せびらかせて自己満足するタイプです。私は完全に後者のタイプなので、こうしてこんな原稿を書いたりしているのですが、興味のない人にまでわざわざ見せびらかすので初めは褒めてくれていた相手もしまいにはドン引き、ほとんど嫌がらせなのではないか？と反省することもしばしばです。しかし、下手をすると迷惑行為にもなりかねないマニアの見せびらかし行為も時には役に立つこともあるという実例を最近経験しました。

事の起こりは2019年２月10日、私はいつものようにビートルズの珍しいレコードやその他関連物などを探しに、休日を利用してふらふらと確たる当てもなく大阪に向けて新幹線に乗ったのでした。何軒かレコード屋さんなどを回ったあと、とあるなじみの中古アナログレコード屋さんに立ち寄りました。そこの店長さんは中学生時分にビートルズが来日（昭和41年）した当時からビートルズを熱心に聴いていたという生粋のビートルズファンなので、いろいろと当時のお話をお聞きして、リアルタイマーならではのエピソードに私はいつも眼を輝かせていました。レコードを散々集めてしまうと徐々に集めるものがなくなってきて、そのころ私は当時のポスターやプロモーション用の資料などいわゆる紙モノを熱心に探し回っていました。店長さんはそんな私の姿を面白がったのか、はたまた哀れに思ったのか、その日はわざわざ私のために当時の貴重な古紙（資料）を準備していてくれていたのでした。

「こんなん捨てずにおいてあるんやけど、もういらへんし、よかったらみんなあげるわ」といいながら、ドサッとほこりだらけの古紙の山を私の前に出してきました。よくみると、なんとその古紙の山は昭和40年代当時物の「ビートルズ・ファン・クラブ（BFC）」の会報やら会員証やらハガキやらの大量の資料なのでした。店長さんはとても物持ちの良い方で、当時入会していたBFCの資料を紙切れひとつも捨てずに、なんとこの令和の世まで大切に保存されていたのです。**写真１**は譲っていただいた資料の一部で、ファンクラブ会員用に抽選販売された武道館公演チケットの当選ハガキなどが見えます。

世界のアイドル、ビートルズには当然ファンクラブが存在し、当時、日本国内にも私設ファンク

写真 1

ラブを含めると無数に存在していたようですが、そのなかで日本国内で唯一ビートルズサイドに公式認定されていたのが「ビートルズ・ファン・クラブ（BFC）」でした。BFC の名前はコアなビートルズマニアの間では有名ですが、すでに解散して 50 年経過しており（現在日本国内で活動しているザ・ビートルズ・クラブは全くの別物）、その公認ファンクラブとしての実態は今となっては謎だらけ、日本を代表するビートルズ研究家の方を以てしてもその活動内容、詳細は闇の中なのでした。書籍、雑誌などの出版物は必ず国会図書館に所蔵され永久に保管されていますが、ファンクラブ会報などは通常の出版物としてのルートに乗らない、いわゆる「灰色文献」と呼ばれ、どこにも保存はされておらず、時代の流れと共にこの世から永久に消えてしまう運命にあるのです。実際、私自身、現物はおろか、ネット上でも、オークションでも BFC 資料はほとんど見かけたことはありませんでした。しかし、今こうして目の前にその BFC 資料が、しかもほぼコンプリートに近い状態で突然目の前に現れたのです。ビートルズ日本史においては最重要資料ともいえる、その貴重な資料を目の前にして、私は危うく気を失うところでした（大げさでも何でも無く）。

で、冒頭でも述べたとおり、頼まれもしないのにコレクションを見せびらかせて自己満足するタイプな私は「これは絶対に個人で隠し持ってニヤニヤしていてはならない。見せびらかすとかいうレベルではなく、きちんとした形で世に出して歴史として残さねば」と固く決意したのでありました。私個人が資料を基に書籍化しても満足できる内容にはならないような気がしたので、驚愕の内容のビートルズ書籍を数々出版、いまやビートルズ日本史研究家として右に出るものはいない大村亨さんに資料をすべてお渡しして世に出していただくことにしたのでした（と、なんか格好いいことをいっていますが、実際には新宿の居酒屋で酒飲みながら丸投げしただけです、笑）。

大村さんもその資料内容には驚かれ、3 年の月日をかけて一冊の本にしてくださり、2022 年 6 月 30 日（ビートルズ来日 56 周年記念ウィーク）にめでたく全国出版されました。執筆にあたって細かく調査を加えていただき、その過程で当時 BFC のスタッフであった 3 人の女性との出会いもあり（会長の下山鉄三郎 氏はすでに他界）、その内容は私の資料を何倍にも増補したような非常

に充実したものになっています。これでめでたく当時唯一の公式日本ファンクラブBFCの資料および実態が永遠にこの世に残ることになったのです。その本のタイトルは『ビートルズ・ファン・クラブ大全』（シンコーミュージック）（**写真２**）。ちなみに帯の文言は「奇跡!! 日本ビートルズ史における超弩級の歴史的資料を発見!!」です。まさにコレクター冥利に尽きます。さらに一番感激したのは、当時BFCスタッフであった女性の感想です。当時高校～大学生の彼女は学業と平行して必死にビートルズ・ファン・クラブの運営を手伝いをされ、今回の本の制作にも協力してくださいました。完成した本を手に取った第一声、「まったく大袈裟で恥ずかしいですが、私のほとんどが全部詰まっている感じです。いつ死んでもいいな」とおっしゃられたとか。これを聞いてはわたしも感激の涙です。大村さん、大阪の店長さんには本当に感謝です。しかし、これだからコレクター稼業はやめられませんね（たいがいにしなさい？笑）。

写真２